

令和8年2月25日

青森県教育委員会第337回臨時会

期 日 令和8年2月25日（水）  
場 所 教育庁教育委員会室

## 会 議 次 第

### 1 開 会

### 2 報 告

- 報告第1号 議案に対する意見について ..... 1
- 報告第2号 青森県公立学校教員採用候補者選考試験における  
改善事項等について ..... 2

### 3 議 案

- 議案第1号 「学校における働き方改革プラン」について ..... 5
- 議案第2号 青森県教育委員会事務局及び教育機関（学校を除く。）  
の職員の人事について .....（非公開の案件）
- 議案第3号 市町村立学校職員の人事について .....（非公開の案件）
- 議案第4号 県立学校職員の人事について .....（非公開の案件）
- 議案第5号 青森県教育委員会事務局の組織等に関する規則の  
一部を改正する規則案について .....（非公開の案件）
- 議案第6号 青森県立郷土館規則等の一部を改正する規則案  
について .....（非公開の案件）
- 議案第7号 青森県総合学校教育センター組織規則の一部を改正  
する規則案について .....（非公開の案件）
- 議案第8号 教科用図書採択地区及び名称の変更について ..... 6

### 4 その他

- 青森県立高等学校魅力づくり推進計画に関する学校の在り方  
地区検討委員会（第2回）の概要について ..... 7

### 5 閉 会

# 報告第 1 号

## 議案に対する意見について

知事から意見を求められた下記議案について、緊急を要するため、青森県教育委員会の事務の委任等に関する規則第 4 条第 1 項の規定に基づき、教育長において臨時に代理し、原案に同意したので、ここに報告します。

### 記

- 1 令和 8 年度青森県一般会計予算案（教育委員会所管分）
- 2 青森県立高等学校授業料等徴収条例の一部を改正する条例案
- 3 青森県立中学校入学者選抜手数料徴収条例の一部を改正する条例案
- 4 青森県学校職員定数条例の一部を改正する条例案
- 5 青森県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する条例を廃止する条例案
- 6 工事の請負契約の一部変更の件
- 7 令和 7 年度青森県一般会計補正予算（第 5 号）案（教育委員会所管分）
- 8 青森県高等学校等教育改革促進基金条例案

# 報告第2号

## 青森県公立学校教員採用候補者選考試験における改善事項等について

### 1 改善の趣旨

本県の教員採用試験では、近年、定年等の退職者の増加などによる採用者数の増加に加え、受験者の減少などにより、最終競争率は低下傾向となっている。令和7年度実施の試験では、小学校1.2倍、中学校2.5倍、高等学校4.4倍、特別支援学校2.3倍、全校種で2.5倍となったところである。小学校では令和5年度実施の1.1倍から若干の持ち直しは見られるものの、依然として最終競争率が低い状況が続いており、中学校や高等学校などその他の校種等においても同様に受験者が減少傾向となっている。

定年等の退職者の増加などによる採用者数の増加は全国的な傾向となっており、本県としても受験者確保が一段と厳しい状況となっていることから、受験者数を確保するため、次の2点について見直しを図るものである。

### 2 実施内容

#### (1) 大学3年生特別選考の実施

大学3年生を対象とした選考については、近年、全国の自治体で実施が進んでおり、文部科学省の調査によると、令和6年度実施試験において、全国68自治体中48自治体が大学3年生を対象とした選考を実施している。

大学3年生での選考を行うことで、教員になる意志の強い者に対し早期に受験機会を創出でき、質の高い学生を確保することが可能となる。また、教員になる意志が固まっていない者に対しても、大学3年生での受験により教職への意識を高め、他業界への流出を防ぐことができる。

以上を踏まえ、学生へ早期の受験機会を創出し、より多くの新卒者を確保するため、大学3年生を対象とした選考を実施する。

**【校種・教科】**

全ての校種・教科

**【受験資格】**

- ・ 現在4年制大学の3年生に在学中の者。
- ・ 令和10年4月1日までに受験する校種・教科の普通免許状を取得する見込みの者。
- ・ 令和10年度青森県公立学校教員となる意志のある者。

**【試験の内容】**

大学3年生において、第一次試験を受験可能。

合格者は大学4年生において、前年度一次試験通過者として第一次試験を免除。

**(2) 小学校及び特別支援学校小学部における実技試験の廃止**

文部科学省の調査によると、全国の小学校及び特別支援学校小学部での実技試験の実施状況（令和6年度実施試験）は、体育が68自治体中5自治体、音楽が4自治体となっており、実技試験（体育・音楽）を行っている自治体は少数である。

本県では、体育・音楽の指導に係る小学校教員の資質向上を図るため実技試験を実施してきた。

一方、受験者は大学の小学校教員養成課程等において体育・音楽を学んできており、採用後は、各学校では教員の得意・不得意によりサポートし合うとともに、県総合学校教育センターで体育・音楽の教科研修の受講が可能となっている。

これらのことを踏まえ、受験者の負担を軽減し受験者数の確保を図るため、小学校における実技試験を廃止する。

**3 実施年度**

令和9年度（令和8年度実施）教員採用候補者選考試験から実施する。

**4 令和10年度（令和9年度実施）教員採用候補者選考試験について**

**○ 教員採用選考に係る第一次選考の共同実施について**

現在、公立学校の教員採用選考試験に係る第一次選考は、各都道府県・指定都市教育委員会が、それぞれ独自で実施しており、各自治体で多大な人員と労力を費やしている。

試験実施を各都道府県・指定都市教育委員会が共同で行うことで、複数の自治体が問題作成に参画することにより試験内容の質が向上することや、第一次選考の問題作成に係る負担軽減により第二次選考において人物重視の丁寧な選考が可能になるなどの効果が見込まれる。

このため、令和7年7月に「教員採用選考に係る第一次選考の共同実施に関する自治体協議会」が設置され、本県を含む51自治体が参画し、現在準備を進めているところである。

また、この共同実施は令和10年度（令和9年度実施）教員採用候補者選考試験から行うこととしており、令和9年度に実施する場合の本県の日程は、令和9年7月10日（土）を予定している。

## 議案第 1 号

### 「学校における働き方改革プラン（令和 8 年度～ 令和 1 0 年度）」について

本県の学校における働き方改革を推進するため、「学校における働き方改革プラン（令和 8 年度～令和 1 0 年度）」を別紙のとおり定める。

# 議案第8号

## 教科用図書採択地区及び名称の変更について

教科用図書採択地区の変更及び名称の変更を次のとおり行う。

教科用図書採択地区の八戸地区と三戸地区を統合し、採択地区の名称を三八地区とする。

[変更前]

採択地区及び名称…… { 八戸地区（八戸市）  
三戸地区（三戸町、五戸町、田子町、  
南部町、階上町、新郷村）

[変更後]

採択地区及び名称…… 三八地区（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、  
南部町、階上町、新郷村）

令和8年2月25日

青森県教育委員会

## [その他]

# 学校の在り方地区検討委員会（第2回）概要について

## 1 開催状況

地区	月 日	会 場
東青	1月26日（月）	ウェディングプラザアラスカ
西北	1月28日（水）	プラザマリユウ五所川原
中南	2月 2日（月）	弘前パークホテル
上北	1月27日（火）	サン・ロイヤルとわだ
下北	2月 3日（火）	プラザホテルむつ
三八	1月29日（木）	八戸プラザホテル

## 2 主な意見

### (1) 全日制課程の学校規模・配置について

No	意 見	地区名
1	国の高校教育改革の基本方針等を踏まえ、青森南高校のグローバル探究科、青森北高校のスポーツ科学科、青森中央高校の総合学科など、それぞれの学科の特色を備えたパイロット校をつくることも考えられる。	東青
2	青森高校と青森東高校、青森北高校と青森西高校、青森南高校と青森中央高校をそれぞれ統合することが考えられる。	東青
3	それぞれの学科の良さを総合して、1つの新しい学科を設置し、魅力を発信することも考えられる。	中南
4	生徒数が減ることによって部活動等にも影響が出ることから、高校を統合することも考えられるが様々な課題がある。	中南
5	高校を集約することで通学に係る交通網も集約できるため、通学手段の課題の解決に繋がる。	上北
6	多様な他者との関わりが新しい自分の発見やコミュニケーション能力の向上に繋がるほか、様々な人と触れ合う経験から適切なパーソナルスペースの取り方を学んでいくことから1学年2学級以上は必要であり、学校規模の維持のためには統合することも必要である。	上北
7	同じ学科を設置している高校の統合は難しいものと考え、例えば、八戸東高校と八戸商業高校の統合が考えられる。	三八
8	学級減が教育の質の低下につながることや、後期実施計画期間における中学校卒業予定者数の減少を踏まえると、早い段階から統合について検討した方がよい。	三八

9	定員割れとなっている高校を学級減することで競争率が高まり、高校の魅力化にも繋がると考える。	中南
10	黒石高校の普通科に関しては、1学級分以上の定員割れとなっており、学級減することで倍率も上がり、競争する生徒も増えると考ええる。	中南
11	中南地区の基幹産業である農業を学べる高校がなくなることは考えられず、学級減についても慎重に考えるべき。	中南
12	地域の担い手を育成するという観点で、弘前実業高校に農業科を設置した方が良いと考え、その場合、商業科の1学級減が考えられる。	中南
13	第1期実施計画において、黒石高校と黒石商業高校を統合したことを踏まえると、黒石高校を学級減の対象から除いてもらいたい。	中南
14	学級減を検討するに当たっては、学力差の是正や学級減による志望倍率の変化も考慮する必要がある。	三八
15	生徒数が減ることにより高校の勢いが奮わなくなることもあるため、ある程度の学校規模は必要である。	東青
16	小規模になったとしても地域の高校は残すべきである。また、柔軟な教育課程や単位制を導入するなど、高校の魅力化を図る必要がある。	上北
17	人間関係のトラブル等があったときクラス替え等の対応ができるよう、1学年2学級は最低必要である。	上北
18	本県の産業構造や人口減少の状況を踏まえると、職業教育を主とする専門学科は大事にすべき。	東青、中南
19	東青地区は、少子高齢化、生産年齢人口の減少、過疎化等の影響を受けやすい地区であり、学級減で対応するのはいつまでか、また、その後どう対応するのかが重要である。	東青
20	他地区や私立高校との兼ね合いをどうするのか、また、地域の産業の状況を踏まえた魅力化をどのように図るのが重要である。	東青
21	県として戦略的に残すべき学科がある場合には、県教育委員会でその案を提示した上で議論するべき。	中南
22	柏木農業高校では、地域の協力により生徒が大きく成長し、卒業後は、地域産業の担い手として活躍しており、必要な高校である。	中南
23	職業教育を主とする専門学科においても、幅広い学びを提供することも考えられる。	中南
24	農業科において、大学進学等にも対応できる教育課程を編成することで子どもたちも様々な選択ができるようになる。	中南
25	各学科に特化した高校や、大学進学に特化した高校などそれぞれに役割を持たせることで、中学生も進路選択しやすくなる。	中南

26	看護師や介護福祉士の国家資格等を取得できる高校や学科等を設置するべき。	上北
27	インクルーシブ教育に対応できている総合学科は残すべき。	上北
28	通学手段を確保して生徒が地区外へ流出しないようにすることも必要である。	下北
29	原子力関連など地域の産業を生かした学びを提供するなど、地区外から生徒を呼び込むような方策を考えるべきである。	下北
30	八戸西高校の学級数については、三戸郡の生徒数だけでなく、八戸駅西口周辺の生徒数も考慮して検討する必要がある。	三八
31	八戸西高校は五戸町からの生徒が最も多く進学する県立高校だが、八戸学院ひばり野西高校の開校後には生徒の進学動向も変わる可能性がある。	三八
32	八戸西高校は、新郷村内から公共交通機関で通学できる県立高校であるため、村内の生徒からのニーズはなくならないと考える。	三八

## (2) 第1回の意見に基づく学校規模・配置について

### 【東青地区】

No	意見
①学級減（大規模校から）で対応	
1	特定の高校の閉校は避けられるが、次の計画においては統合が必要である。
2	①の対応を行いながら、次の段階が②案、③案になるのではないかと。
3	①の対応を行い、志望倍率を踏まえた検討、専門学科や特色ある学科の維持の検討などが引き続き必要である。
4	どの高校も学級減をするというのは理解しやすいが、小規模化する中でどのように教育活動を充実させるかが重要である。
②学級減（志望倍率の高い学校・学科は除く）で対応	
1	進学校の志望倍率が高いことから、こどもたちの意見が一番集約されている。
2	青森高校や青森東高校以外の普通高校は統合の対象になる可能性があることから、特色化・魅力化が重要になる。
③学級減（専門学科は除く）で対応	
1	人財不足に対応することができる。
2	職業教育を主とする専門学科の生徒が地元に着住する可能性はあるが、その他にも、普通高校における地域に根差した特色ある教育が大事になる。
④統合等で対応	
1	教員数などの教育環境を充実させられるほか、生徒同士の競争により学習効果が高まるが、地域住民への影響が課題である。
2	今別町や外ヶ浜町の中学生にとって、現在の学校配置では、下宿などの経済的負担や鉄道路線の乗り換えなどの負担をかければ通学できる高校もあるが、統合が進めば通学できる高校が減ってしまうため、統合するに当たっては、県や高校が通学支援を実施すれば納得できる。

【西北地区】

No	意見
①学級減（五所川原工科高校の普通科を2学級減）で対応	
1	多様な生徒との関わりが減り、人間関係が固定化するなどの課題が生じる可能性がある。
2	五所川原高校の学級数が維持され、定員割れの状況が続くことで一定の競争がなくなってしまう。
3	五所川原工科高校が工業に特化した高校となることで、工業を志す生徒が明確な目的意識をもって進学できる高校になるとともに、地元に着定する人財が増える可能性があり、望ましい方向と考える。
4	普通科が減れば私立高校に流れる可能性が高い。
5	五所川原工科高校の普通科2学級は、板柳高校・鶴田高校・金木高校との統合に伴い設置された経緯があるため、普通科2学級をなくすことには疑問がある。
②学級減（五所川原高校と五所川原工科高校の普通科を1学級減）で対応	
1	五所川原高校が4学級になると教員定数が減り、同校の生徒が志望する大学への進学指導が困難になるため、5学級体制を維持することが望ましい。
2	五所川原高校の学級数を維持すると学力下位層への対応が難しくなる。
3	五所川原高校4学級、五所川原工科高校普通科1学級とすれば、五所川原高校の教育水準を維持しつつ弘前市への流出を防げる。
③統合（五所川原農林高校及び五所川原工科高校）で対応	
1	農業高校と工業高校を統合すると、それぞれが培ってきた専門性が薄れる。将来的に農業科と工業科を併置せざるを得ない場合、高校と接続する公立の4年制大学を設置することで、専門性を発展させることが可能になると考える。
2	後期の5年間の生徒数を考えると、五所川原農林高校、五所川原工科高校、木造高校を統合するとともに、校舎制を導入し、西北地区の生活を支える産業の学びを提供することも考えられるが、前期の5年間で実施するのは反対である。
3	校舎制は経験上、実質的に別の高校になり、地域からも同一校と認識されていなかった。
4	工業科と農業科の連携により、現場の課題をイメージしながら学べるメリットはあるが、五所川原工科高校の普通科が減ることで、学力中位層の受け皿がなくなり、中南地区への流出が進む懸念がある。

【中南地区】

No	意見
①学級減（定員割れとなっている高校）で対応	
1	定員割れにより学力差が広がっていることから、その解消に繋がる。
2	学級減をすれば、その高校に通学する生徒も少なくなるため、地域への影響が少なからずある。
3	小規模化することで、生徒同士の関わりが薄くなるとともに、学びが固定化されてしまう。
4	定員を満たしている高校を学級減することで、第1志望の高校に通えなくなる生徒が増えるため、定員割れの高校を学級減したほうが良い。

②学級減（1学級の職業教育を主とする専門学科は除く）で対応	
1	職業教育を主とする専門学科を残すことで、高校の活性化のみならず、地域の活性化にも繋がる。
2	普通科は倍率を維持していることから、学級減することで普通科に入学できなかった生徒は、私立高校へ進学するため、更なる県立離れを助長する。
③学級減（黒石高校は除く）で対応	
1	黒石市内の中学校から黒石高校への過去4年間の進学実績を見てみると、黒石市内の生徒にとって必要な高校となっている。
④学級減（普通科及び専門学科で1学級ずつ減）で対応	
○ 意見なし	
⑤統合等で対応	
1	学級数が増えることにより、教員数が増えるため、幅広い教科・科目等が担保され、高校教育の質を確保することができる。
2	統合対象校のいずれかが廃校になるといったイメージを持たれる。

### 【上北地区】

No	意見
①学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応	
1	多くの中学生は普通科を志望する傾向にあることから、職業教育を主とする専門学科を再編することについても検討が必要である。
2	中学校卒業予定者数の減少を考慮すると学級減は仕方がないが、職業教育を主とする専門学科同士の統合の場合、キャンパス制とする必要があり、これまでと同様の教育活動が別々の場所で行われるだけであることから、小規模化したとしても、現在の所在地に高校はあった方がよい。
3	七戸高校が2学級になったとしても総合学科の理念を踏まえた特色ある教育課程を編成できる体制を維持してほしい。
4	現在の七戸高校においても外部講師を活用した教育活動が行われているが、2学級になったとき、総合学科としての魅力ある取組が減ってってしまうため、維持していただきたい。
5	各校を1学級ずつ削減することも一つの案としてはあるが、中学校卒業予定者数が減少する中、もっと大きな視点で高校再編を行わなければいけない時期に来ていると認識するべきあり、統合することも必要である。
②学級減（職業学科の精選と普通科の学級減）で対応	
1	国や県の考え方に沿った案であり、エッセンシャルワーカーはA Iで代替しにくい分野だと言われており、そういった人財の育成に力を入れることは必要である。
2	国のグランドデザインの骨子にある専門高校の機能強化・高度化、普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化を踏まえて、現実的な対応である。
3	1学科1学級で教育活動を行っていることから学科の集約は困難である。
③学級減（百石高校を除く）で対応	
1	百石高校の普通科が2学級から1学級となった場合、希望する生徒が入学できない状況となるなどの事情を考慮し、現状の規模を維持してほしいが、志願倍率が0.5倍を下回るのであれば、学級減については検討する必要がある。

【下北地区】

No	意見
①学級減で対応	
○	意見なし
②統合（田名部高校と下北地区統合校）で対応	
○	意見なし

【三八地区】

No	意見
①学級減（八戸西高校・三戸郡を除く）で対応	
1	八戸学院ひばり野西高校が開校することにより、五戸町内の中学生が当該校を選択することも考えられる。
2	教育の質の確保の観点や第2期実施計画における学級減の実績を踏まえた議論が必要である。
3	三戸郡の生徒の通学環境を踏まえると、八戸西高校の地理的な必要性は尊重されるべきと考える一方で、完全に学級減の対象外とすることについては違和感がある。 八戸東高校と八戸北高校は現行の第2期実施計画で学級減の対象となっていることを踏まえると、前期実施計画でその2校を学級減の対象とすることは地域の理解を得られないのではないか。また、八戸高校については他の高校にはない人財育成の体制が構築されているため、率先して学級減の対象とすべきではないと考える。 八戸西高校も学級減の候補に入れた上で、全体的なバランスを考慮した議論を行う必要があると考える。
②学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応	
1	学級減が学科の消滅に直結することに不安を感じる。
2	地域の産業への貢献度が高く、安易に学級減できないと考える。
3	学級減が学科の消滅につながる場合は、安易に学級減できないと考える。
③学級減（学科の統合）で対応	
○	意見なし
④統合（八戸商業高校及び普通高校）で対応	
1	進学先の傾向が異なる高校を統合することについて慎重に考える必要がある。
2	職業教育を主とする専門学科と普通高校の統合も考えられるのではないかと。
3	小規模校の場合、人間関係が固定化された中で3年間過ごすことになるため、大規模校を選択する生徒が多いのではないかと。規模を維持するために統合する場合は、異なる学科を有する高校の統合により、多様な学びを提供できるようになるほか、様々な目標を持った生徒が集まることになり、魅力的な高校になると考える。

### (3) 定時制・通信制課程の学校配置について

No	意見	地区名
1	不登校の子どもやその保護者にとって、北斗高校は魅力ある高校であることや高校の現状を踏まえると、定時制課程の学級増や通信制課程の充実を図る必要がある。	東青
2	校内教育支援センターや特認校における支援を受ける生徒も多く、このような生徒に対応できる高校がもう1校あっても良い。	東青
3	社会的自立につながる重要な役割を果たしていることから、定時制課程は今後も配置すべきである。	西北、上北
4	通信制課程を選択する生徒も増えており、現在の3地区の配置を維持すべき。	西北
5	上北地区にも通信制課程を設置すべきである。なお、設置する場合には、スクーリングを考え、公共交通機関の利便性が高い野辺地高校に設置するのがよい。	上北
6	夜間定時制課程では公共交通機関がなく、通学困難な生徒がいることから、昼間定時制課程を設置してほしい。	下北
7	通信制課程の設置に当たり、スクーリングの場所が課題であれば、公共施設等の活用も検討すべきである。	下北

### (4) その他

No	意見	地区名
1	遠隔教育を実施するに当たっては、授業の実施や経費などにおいて障壁の対応について考える必要がある。	東青
2	少人数学級編制は、教育的効果は高いが規模の利益を失う。学校の規模が小さくなりすぎるとマイナス面が大きくなる。	東青
3	キャリア教育という観点でも探究的な学びは重要である。	東青
4	高校と地域が一体となった学びづくり、まちづくりにつなげられれば高校の魅力化が図られる。	東青
5	職業教育を主とする専門学科を残すのであれば、時代に合った学科の設置等を考えても良い。	東青
6	10年間の視点で考えると、少人数学級編制の拡充は避けられないため、県として方向性を示してほしい。	西北
7	今後10年間で6学級減となる見込みであり、後期実施計画期間の5年間では少人数学級編制でも対応できず、統合が必要になる可能性があるが、その場合に事務局から案を示してほしい。	西北

8	職業教育を主とする専門学科は自分の自由な経営ができるというのが強みであるため、このことを発信していくことが必要である。	中南
9	柏木農業高校に通級による指導を導入してほしい。	中南
10	普通科においても不登校生徒や進路変更へ対応するため、柔軟な教育課程の編成や文理融合の学びが必要である。	上北
11	自宅から通学できる高校でも、生徒が遠隔授業等の多様な教育を受けられる環境があるとよい。	上北
12	中学校卒業予定者数が減少している中において、学級減等を実施するのは仕方がないが、少人数学級編制を導入するための最大限の努力は必要である。	上北
13	夢に近付けるような教育課程や分野の学びができるような、本県ならではの高校教育を考えてほしい。	上北
14	高校を選択するには、何を学べるかといった内容が大事であり、それが見えない中で議論するのは難しい。	下北
15	次期計画期間内で2学級減り、全体で10学級となるのは了承できない。	下北
16	大学進学に重点を置く高校と職業教育を主とする高校の棲み分けが必要である。	下北
17	北通り地域では、むつ養護学校への通学に係る負担が大きいため、大間高校にむつ養護学校の分教室を設置してほしい。	下北
18	通学に当たり、保護者の負担軽減について考慮する必要がある。	三八
19	名久井農業高校の全国募集は今後も継続してほしい。	三八